

授業概要

文化は実際に体験しなければ真の理解は得られません。イギリス文化に直に触れることは簡単ではありませんが、授業では映像やコピーなどを使うことで（たまに実物も登場！）テキストだけでは得られない文化の「力」を感じる機会を提供します。それをきっかけに、受講生が主体的に文化に触れようとする行動力を身に付けることが期待されます。（国際学部と教育学部の学生が履修しています）

Welcome to 授業



学生から

もともと「シャーロックホームズ」の小説が好きだったことがイギリスに興味を持つきっかけで、イギリスの文化に触れてみたいと思うようになりました。昨年、イギリスに留学したこともあり、より深くイギリスのことを学びたいと思ってこの授業を選びました。いろいろな角度からレクチャーしていただけるので、新たな発見があります。現地の写真をたくさん紹介してくれますので、自分もその場に行った気になれます。

国際学部国際文化学科3年 鈴木康大

外国語を勉強しているときに、「なぜ同じ意味なのに、こんなに言語の種類があるんだろう」と思っていたのですが、「言語」の授業を聴いて、その謎が解けました。この授業もおもしろかったのですが一番興味があるのは美術で、大学院に進んで美術史を学びたいと思っています。そのためにも、これから予定されている「美術」や「庭園」など、授業で扱う領域をしっかりと勉強していきたいと思っています。

同4年 橋本恵里

英語の教員を目指していますが、教育実習で、ただ教科書の字面を追っていくような勉強ではなく、その後ろに隠れている文化的な背景を知らなければいけないということに気づきました。日本の英語教育は、発音も文化もアメリカに偏りがちなところもあるので、英語圏の一大拠点であるイギリスのことももっと学ばなければならないし、それを子どもたちにフィードバックできる教員になればと思っています。

教育学部英語教育専攻3年 山根幸治



U-tunes

今回ご紹介した授業の様子
および先生からのメッセージ
が動画でもご覧いただけます。



http://www.utsunomiyau.ac.jp/u_tunes/index.html

教員から

イギリスの文化を学ぶ意味として重要なことは、それぞれの国、地域の文化には多様な特徴があって、その多様性の一つの事例を知るといふことにあると思います。

イギリスの文化という、例えば『バッキングガム宮殿の兵隊さん』とか『2階建てのバス』といった固定したイメージがあって、ある意味、わかりやすい文化だとは思いますが、そういったイメージはイギリス文化の一面にすぎません。イギリスは多民族社会であって、文化にも多様性があります。そういう意味でイギリスの文化を学ぶということは、多様化しているいまの世界の状況を考える上で、おもしろいサンプルになるということもあると思います。

「多文化」「多様化」「多民族」という言葉の意味するところは、実際はどのようなのか。特に日本に比べると、なかなかイメージしにくいと思うのですが、イギリスは、それが日常にあふれていますし、文化の形成に、多くの影響を与えています。こうした社会を背景にして生み出されたモノがどのような形を取っているのか、ということを見ることができると、イギリスは重要な地域です。



国際学部国際文化学科 出羽 尚 講師